

SC キャピタル・パートナーズ、第 6 号アジア太平洋オポチュニスティック型不動産ファンドの資金調達を完了

シンガポール、2025 年 3 月 26 日 – シンガポールを拠点とする不動産投資会社 SC キャピタル・パートナーズ・グループ(以下、「SC キャピタル・パートナーズ」)は、第 6 号アジア太平洋オポチュニスティック型不動産ファンドの「リアル・エースタート・キャピタル・アジア・パートナーズ VI エル・ピー」(以下、「RECAP VI」または「当ファンド」)および関連する事業体に対して、9 億米ドルの資金調達をファイナル・クローズしたことを発表しました。

RECAP VI は、アジア太平洋の先進国マーケットにおけるオポチュニスティック投資を対象としたファンドです。テクノロジーとホスピタリティの成長分野で SC キャピタル・パートナーズが展開するオペレーティング・プラットフォームを活用したテーマ別投資アプローチを採用しております。

RECAP VI は、これまでに調達したエクイティの 70%以上を既に投資しており、そのうち 44%は日本に配分し、ホスピタリティとデータセンターを中心とする日本市場への投資に注力しています^[1]。

RECAP VI の投資実績に、日本国内の 27 のホテルで構成されるポートフォリオの取得が含まれます。本投資は、ホテル運用のスペシャリストであり、かつ SC キャピタル・パートナーズが主要株主であるジャパン・ホテル・リート・アドバイザーズ(「JHRA」)が担います。この戦略的投資に当社の豊富な専門知識と運営力を取り入れることで、訪日外国人観光客および国内旅行者からの継続的な需要の拡大を取り込むことが可能になります。

また、当ファンドは自社のデータセンター・オペレーション・プラットフォームである SC ゼウス・データセンターと連携し、大阪にデータセンター・キャンパスを、韓国・富川にハイパースケール施設を開発中です。RECAP VI は、アジア太平洋地域におけるデジタル・トランスフォーメーションやクラウドインフラの拡大によって強い需要が見込まれ、長期的なマクロトレンドに支えられたセクターを投資ターゲットとすることを主な戦略として展開致します。

SC キャピタル・パートナーズの創業者で会長のスチャッド・チアラヌサティは、次のように述べています。「グローバル資本市場は継続的な課題はあるものの、私たちはアジア太平洋地域の不動産セクターに対して楽観的な見方を維持しています。特に日本のホスピタリティ業界、データセンター市場、産業・物流セクターなどに、長期的で強いファンダメンタルズに支えられた魅力的な投資機会が見られます。」

RECAP VI は、政府系ファンド、事業会社、大手機関投資家を含む多様な投資家から力強い支持を得ています。オペレーティング・プラットフォームを活用した高品質な投資へのアクセスを提供するという当ファンドの強みが、世界中の投資家を引きつける大きな差別化要因となっています。

チアラヌサティはさらに、「RECAP VI を成功裏にクローズできたことは、ホスピタリティ、データセンター、産業・物流の各分野において、自社のオペレーティング・プラットフォームを活用できる能力を示しています。このアプローチを通じて、主要なセクターで強固な開発ソリューションを提供し、運用効率を向上させ、投資家に長期的な価値を創出することが可能になります」とコメントしました。

[1] 2024 年 12 月 31 日時点

SC キャピタル・パートナーズ・グループについて

SC キャピタル・パートナーズは、2004年に設立された、シンガポールを拠点とするアジア太平洋地域に特化した不動産投資運用会社です。運用資産残高(AUM)は 83 億米ドル^[2]で、そのうち 57%を最大市場である日本に、次いで 10%をオーストラリアに割り当てています。

日本のホスピタリティ分野において強いプレゼンスを確立しており、AUM全体の55%を占める当社最大のエクスポージャーを有します。SC キャピタル・パートナーズは、日本のホテルにおける地域密着型の運営と資産運用のスペシャリストでもあるジャパン・ホテル・リート・アドバイザーズ(「JHRA」)の主要株主です。

また、60 を超える世界中の機関投資家からの多様な資金プールを保有する当社は、オポチュニスティック型ファンドシリーズのリアル・エステート・キャピタル・アジア・パートナーズ(「RECAP」)やコア・プラス・ファンド(「SCORE+」)およびオーダーメイドの投資ソリューションを通じて、リスクとリターンの特長全体にわたって投資活動を展開しています。

これまで、アジア太平洋地域全体で 100 件以上、総額 60 億米ドル超の取引を完了しており、そのうち 82%はオフマーケットで資金調達を行いました。

アジア太平洋地域で 8 拠点^[3]を構える SC キャピタル・パートナーズは、シンガポール金融管理庁よりキャピタル・マーケット・サービス(CMS)ライセンスを取得しており、認定投資家および機関投資家向けの認可ファンド運用会社として、ファンド運用の規制対象事業を行っています。

[2] 2024年9月30日時点

[3] アジア太平洋地域におけるプレゼンスには、SC キャピタル・パートナーズの専任コンサルタント、提携企業、シニア開発アドバイザー、および専門運用プラットフォームが含まれます。

メディアの問い合わせ先:

Mei Xi TAN

SC キャピタル・パートナーズ・グループ

インベスター・リレーションズ部門ディレクター

E メール: mxtan@sccapital.com

電話: +65 8282 0493

SC キャピタル・パートナーズ広報窓口(CDR 内)

E メール: SCCapital_PR_JP@cdrconsultancy.com

電話: 東京 03(4360)9241